

第 10 号

発行日 平成22年3月6日
 発行者 〒036-8561 弘前市文京町3
 理工学部同樹会(理工学部内)
 題 字 同樹会長 千葉 信行
 印刷所 株 笹 軽 印 刷

理工学部同樹会報

会員寄稿



地球科学科の精神

田 中 克 人

(昭和五十五年
理工学部地球科学科卒業)

地球科学科が新設されたのが一九七六(昭和五十一)年四月である。この年はロッキード事件の余波で昭和五十一年度国家予算の審議が遅れた。地球科学科の入学試験は設置が決定されないまま実施されたが、何とか入学前の四月の始めに理学部地球科学科は弘前大学理学部の五番目の学科として、全国では静岡大学に続いて四番目に正式に設置された。

この寄稿は地球科学科一期生ということもあるが、千葉会長が、私が高校三年の担任であったということが大きい。加えて三浦副会長が私を青森高校に拾ってくれた当時の青森高校校長で上司であった。元担任と元上司が名を連ねている会に寄稿してくれと言われればいたしかたなしというところである。

このような調子でお世話になった先生方や諸先輩のお名前を列挙すれば、ほとんど与えられた紙面を埋めてしまうので、あと二人の先生に登場していただ

いて、学部・学科を問わず他にお世話になった方々にはこの場を借りてお詫びを申し上げたい。地球科学科発足時はたった二人の教官しかおられなかった。鍋谷祐夫先生と田中和夫先生である。鍋谷先生には、入学時に「あなた達の入学試験の成績は決して良くなかった」というとても正確なお言葉をいただいた。当時の理学部では新参者という感覚と、低学力集団という劣等感を心の片隅に持ち続けた四年間だった。名前からして論理性が微塵も見られない「山師の家」という会報は一期生の気質を表したものである。こんな感じで楽天的な学生が多く、楽しく四年間を過ごしたのも事実である。

二期生は受験時の倍率が九・五倍、三期生も他の学科と同じくらい約五・九倍で、二期生以降は何も劣等感にさいなまれることはなかった。

二年時の二十八単位の専門科目はお二人の先生ではまかないきれず、十二単位が集中講義で

あった。二単位の集中講義は一週間五コマ分であるから、長期休業のうち六週間は集中講義に取られた。通常、理学部の他の学生が講義を受けている期間は、我々は暇で、酒を飲み交わし、プレートテクトニクスとプレートテクトニクス批判の根拠を議論していた。

地球科学科は地質学中心の学問から、地球物理学、地球化学が急速に発展し、地球を多方面からアプローチし、学際的・横断的な学問として、プレートテクトニクスとともに発展してきた傾向がある。鍋谷先生は、地球科学の一分野に偏った専門性を磨くより、さまざまな分野の知識を習得させたいという方針にもとづいてカリキュラムを作成された。

今振り返ってみると、この地球科学科の精神は私にとって後に大いに役立った。弘前大学理学研究科を修了し、二年後教職に就いた。一九九六年に青森県庁県史編さん室に高校教員から六年間出向し、青森県史自然編を担当できたのもこの精神のお陰だと思ふ。このとき田中和夫先生に再びお世話になるとは夢にも思わなかった。その他にも大学の恩師に再びお世話になったり、理工学部へ出向いたときには職員の方にも学生だったことを覚えて声をかけていただいたこともあったりで、まるで学

生に戻ったような気分を味わうことができた。

現在は八年前から青森高校に勤務している。高校の地学は、履修者が年々減少し、絶滅危惧科目となっている。地学は文型の選択科目として細々と開講されている。地球科学を担う人材を育てたいと思うが、現状では、理型から地学を履修せずに地球科学系学科に入学するか、文型から地球科学を目指す生徒がでるかということになる。青森高校八年間のうちに、文型から地球科学系の進路を選んだ生徒が二名いた。そのうち一名が昨年度、第二回国際地学オリンピックファイリピン大会で銀メダルを獲得した。このメダルは理学部に地球科学科が設置された成果の一つであると考えている。

昨今、大学が独立行政法人となり、競争原理が導入され、大学の評価が数値化される傾向にある。卒業生が社会でどのような活躍し、貢献したかが大学の一つの成果だと思ふ。この点に於いての数値化は不可能である。理工学部の精神がずっと生き続ける教育を同窓生として期待したい。理学部地球科学科の精神は生きていと思うが、名が消えたことに寂しさを感じる。



定年退職教員

平成二十一年度末をもって、地球環境学科 力石國男教授、電子情報工学科 荒木喬教授の二名の先生方がご退職されました。ご退職の先生方におかれましては、永年にわたる教育研究活動、及び同樹会に対するご尽力に対し厚く御礼を申し上げます。と同時に、今後益々のご活躍と同樹会への変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。なお、両先生方から本学部における様々な思い出や出来事に纏わるお言葉を頂戴しました。在学時代にお世話になった先生のお顔、お言葉に、当時は懐かしみながらお読み頂ければ幸いです。

夢の途中

理工学研究科

(地球環境学科)

力石 國男



同樹会の皆様こんにちは。この会報を実際に手に取って読まれるのは今年度の卒業生でしょうか。私はこの三月末日に定年を迎え、皆さんと一緒に弘前大

学を卒業してゆきませぬ。世界はいま未曾有の不況に喘いでいますが、皆さんはこの難局をなんとか乗り越えて、次の高みに向かって邁進して下さい。洋々たる前途が開けることを願っています。

私は、前任地の九州大学（応用力学研究所）から、一九七八年五月に理学部地球科学科に赴任して来ました。それ以来、足かけ三十二年間弘前大学に勤務したことになります。数字的にはずいぶん長い年月ですが、その間にたびたび組織の改変やカリキュラムの変更があり、また自分の専門を海洋物理学から気象学・気候学、雪氷学へと変えてきたため、それらの対応に追われて夢中で過ごして来ました。あつという間というのが実感です。

前任地には七年間勤務しましたが、実際に教壇に立ったのは弘大に赴任してからです。初めて開講する授業科目では、教材研究が間に合わず、夜が明ける頃まで準備していたことがたびたびでした。でもすぐ欠陥部分が見つかり、それらを改善して授業内容がある程度落ち着くまでに、三年はかかりました。「教えることは学ぶことである」という言葉の重みを噛みしめたものです。専門科目以外にも関連の物理学や数学、科学英語も担当してきましたので、私の三十二年間は学ぶことの連続であったといっても過言ではありません。見方を変えれば、学生諸君

が私を大学教師として育ててくれたことになりました。この場を借りて卒業生の皆さんに感謝する次第です。

弘前大学に赴任して感じたのは、学生はキャンパスから歩いて十分以内に住んでいたので、時間にゆとりがあり、放課後も友達同士のつき合いが続いていたことです。豊かな時間を利用して、多くの学生は密度の濃い学園生活を満喫していたように思います。都会の大学生には縁のない贅沢です。弘前大学を選んで良かったと思つて卒業してゆく学生が多かったのも、この辺にもその一因があったような気がします。豊かな時間が持てることは教員にとつても大きなメリットです。研究者にとつても最も大切なのは時間と自由だ（と私は考える）からです。時間がふんだんにあれば、研究や教育の構想を深めて、研究の発展や自己の成長につなげることが出来ます。また、家族や学生との交流に割く時間も多くとれます。こうした環境は地方大学の大きな魅力だと信じています。ただ、最近は学生同士の交流が少なくなり、学生と教員の関係も疎遠になりがちで、卒業・修了祝賀会の参加者がかなり減少しています。社会環境の変化が原因なのかも知れませんが、一抹の寂しさを感じざるを得ません。

さて、「子供は親を見て育つ」という言葉があります。定年を前にして、私（子供）も結局は

大学時代や前任地の恩師（親）の真似をしていたに過ぎなかつたという思いにかられます。恩師の背中を思い出しながら、私は新入生に「高校までの教師は母親の役割を担い、大学教師は父親の役割を担っている」ことを話して聞かせてきました。大学教師として自立した学生を育てるためには、父親の生き様を見せることが欠かせないからです。地球科学科の卒業生の中に、民間会社や官庁、教育機関等で活躍している人が予想以上に多いことは、私どもの大きな喜びですが、彼らも地球科学科教員の背中を見て育つてくれたのではないかと思っています。

私自身はといえば、この三十二年間で専門を海洋物理学から気象学・気候学、雪氷学に変えてきました。それは単なる気まぐれではなく、地域の人々の生活に役立つ学問をしたという一心からの進路変更です。専門を変えようという事は、初学者から再スタートすることですから、ずいぶん損な役回りに違いありません。でも、そのことによつて初めて見えてくる世界があることが分かりました。私は現在、「雪氷圏の気候学」という学問を創るべく、雪氷圏の衰退や地球温暖化の問題に取り組んでいきます。その結果、世間の常識とは違つて、地球温暖化の実態は二酸化炭素濃度の上昇とは関係がなく、雪氷圏の衰退も地球温暖化とは無関係であることが明らかになりました。地球

環境を大きく変えているのは、実は、大気汚染に由来する雪氷の汚染なのです。これらの研究結果はまだ論文にまとめていませんが、フランスの非営利団体「Le Cercle Polaire」（極地圏）は、ホームページのトップで私の見解を紹介してくれています。興味のある方は <http://www.lecerclepolaire.com/> に入つて、クリックを二回繰り返していただき、雪の弘前城を背景とした私の見解を覗いていただければと思います。（極地圏の環境変動について、他の一〇〇人の識者の見解が <http://www.lecerclepolaire.com/all.html> に紹介されています。）

そんなわけで、私は定年を迎えました。学問はまだ道半ばであり、今は夢の途中です。

理工学部での思い出

理工学研究科

(電子情報工学科)

荒木 喬



平成九年十月に理工学部赴任し、今年三月定年となる荒木と申します。

弘前大学学園だよりと理工学部同樹会から定年にあつた

原稿依頼が舞込んで来ました。筆不精の私にはとても荷がおもいのですが、最後の力を振り絞って、思い出話をご紹介したいと思います。

弘前大学学園だよりは理工学部へ赴任するまでの思い出を記述しましたので、ここでは理工学部在職時代の思い出を記述します。

さて、私は小学校、中学校、高等学校、大学と電子回路の設計や製作が大好きな少年でした。トランジスタ技術、CQハムラジオなる雑誌は現在も愛読しています。特に通信販売の電子部品が掲載されている広告の記事は隅から隅まで見ています。

理工学部には配置換えになる前に、O K I ネットを構築し、さらにアマチュア無線の430MHz帯を使って無線モデム(TNC)とO K I ネットとの接続装置を試作し、自宅から東北大学や東京大学の大型計算機を使用出来る装置の試作に夢中になっていた頃、岩手大学工学部にも私と同じことを考え、リモート接続機器を設計製作している先生がおりました。この後、この先生と運命的な出会いを果たすことになりました。

ネットワーク構築は、さらにエスカレートして、無線から有線のインターネット接続装置について、回路図やプログラムを公開するために、当時の東北大学大型計算機センター便り

(SENAC)に投稿しました。その時の査読者の意見で、当時の通信法では、有線通信と無線通信との相乗り入れ及び相互接続は禁止されており、法律が整備されていないため、場合によっては、法律違反として行政処分の対象となることでした。さすがの私も、震え上がり投稿原稿を修正したことを思い出します。

平成九年十月に理工学部・情報システム工学科に配属され、最初の学科会議で初めて岩手大学でネットワーク構築を行っていた先生のお顔を拝見することになるうとは！

その後は、当然の流れとして、同じ物づくりの立場からお互い、喧嘩したり、喜びあったり、好き勝手に意見を交わし、学生実験装置の開発では、特性インピーダンスやSパラメータの学習が出来る様にと、お互いに協力して伝送線路やアンテナ関連の教材の開発を行うなど、楽しい十二年間を過ごすことが出来ました。

このように楽しい研究生生活を送れたのも、皆様の協力と援助があったためと感謝いたしております。最後になりましたが、同樹会の皆様のご活躍をお祈りいたしております。



理工学部 理工学研究科の 就職状況

理工学部就職対策委員長
澤田英夫

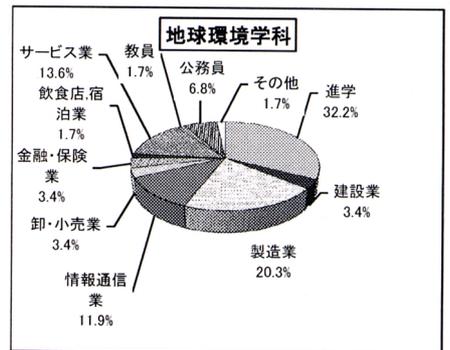
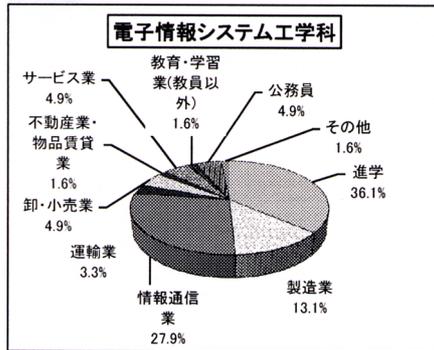
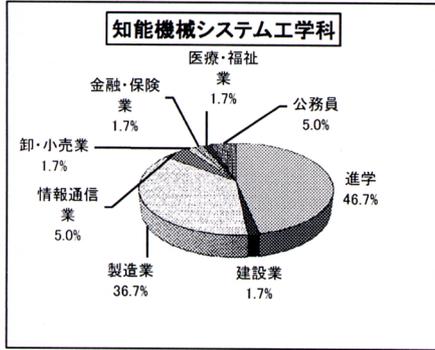
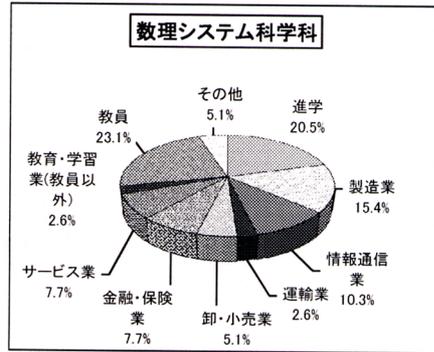
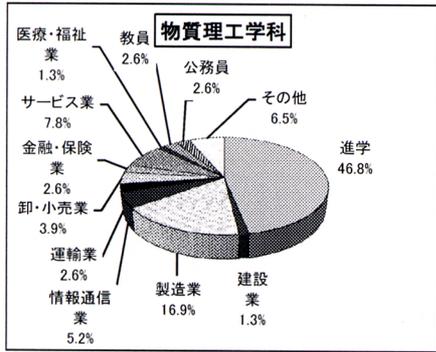
最近の不況を反映してか、大学への進学率は「二人に一人」の時代になってまいりました。四年生大学への進学率は二〇〇九年春に五〇・二%と初めて半数を超えております。しかしながら、一昨年初秋以来の不況の影響により学生の就職率は六八・四%と六年ぶりに低下し、就職も進学もしていない人は八千人増の六万八千人と大学卒業者の一二・一%を占めるに至っております(いずれも朝日新聞二〇〇九年八月七日朝刊)。昨年度理工学部の就職率は九八・九%と全国平均さらには大学全体の就職率・九五・五%よりも高い状況でありました。大学院理工学研究科修士の学生も学部生と同様、高い就職内定率(九八・六%)で推移してまいりました。昨年度におけるこのような高い就職内定率は新卒(学部卒、大学院修了)の有効求人倍率と強く関係しており、昨年度卒(二〇〇九年三月卒)の学生の有効求人倍率が二・一四(有効求人

倍率・新卒求人企業数を、職を求めている新卒学生数で割った値)と一昨年と同様、ここ十年で最も高い値を示していることから理解できます(十年前の二〇〇〇年における新卒有効求人倍率は〇・九九でした)。しかしながら、景気の低迷が続いている現在では、企業の求人数の大幅増は望めず、本年度新卒の有効求人倍率は一・六二までに低下しております。この有効求人倍率が反映してか、本年度一月末現在の理工学部および理工学研究科の就職内定状況は、六五・四%および六三・八%と前年度同期に比べ学部生では△二・三・四%、理工学研究科生では△二・四・四%にまで激減している状況です。この就職難は団塊の世代の方々が六十歳定年で退職され数年が経過している現在では、新卒の求人数が増え回復するものと予想されます。しかしながら、多くの企業では六十歳定年の方々が六十三歳もしくは六十五歳まで再雇用されるケースが多く、新卒の方の就職難はここ数年続くことが危惧されます。

一方、大学院博士前期課程への進学率は平成十七年から十九年度においては四〇・五%、三五・〇%、三〇・三%と右肩下がり傾向であったのが、平成二十年度においては三八・二%にまで上昇し、本年度は前年度に比べさらに上昇する結果となっており、この結果は、弘前大学理工学部に限ったことではなく全国的なものとなっております。就職難な状況を強く反映しております。

平成二十年度学部卒業生と理工学研究科修了生の就職先の業種を比較してみますと、学部生の場合は、建設業、製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、卸・小売業、金融・保険業、不動産業、飲食店・宿泊業、農業、教員、公務員、その他の産業等、多岐に渡っているのに対して、理工学研究科修了生においては製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、卸・小売業、教員、公務員等に分類されるものの、これらの中でも製造業が五七%と圧倒的に多いのが特徴であり、この傾向は平成十九年度と同様であります。この傾向は、大学院修了生においては大手の製造業に就職する学生が多く、大学院在籍時に身に付けた専門性を企業の方が十分評価していただいた結果と思われる。しかしながら、大学院への進学率の増加は就職採用試験時における大学院生同士の競争の激化に繋がります。このような厳しい状況の今こそ、学生諸君の自己啓発を含めた専門能力のレベルアップを計っていただきたいものです。

平成二十年度
理工学部
就職状況
分野別グラフ



進学先一覧
(理工学部卒業生)

数理システム科学科
弘前大学大学院 七名
その他、九州大学大学院

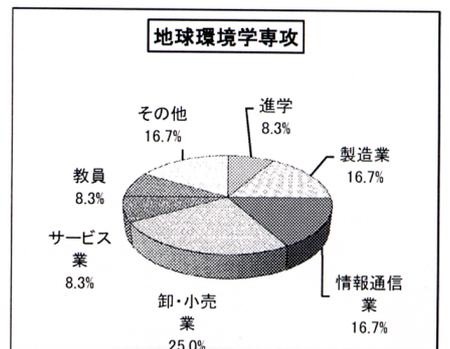
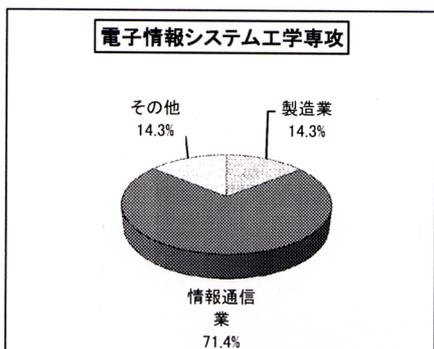
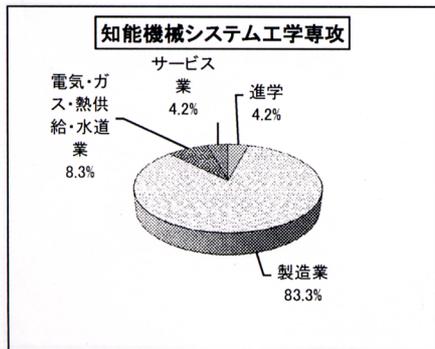
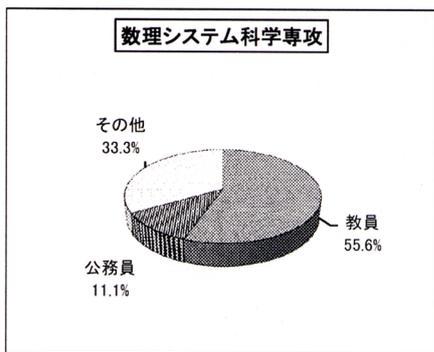
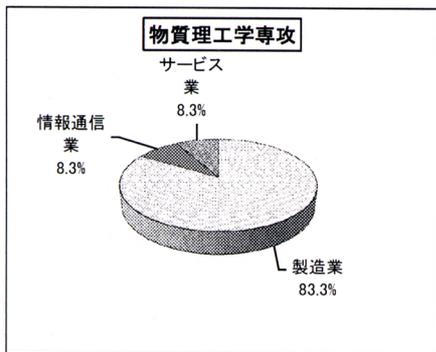
物質理工学科
弘前大学大学院 二六名
その他、北海道大学大学院、
山形大学大学院、筑波大学
大学院、東京大学大学院、
電気通信大学大学院、信州
大学大学院

地球環境学科
弘前大学大学院 十六名
その他、静岡大学大学院、
名古屋大学大学院

電子情報システム工学科
弘前大学大学院 二二名
その他、北海道大学大学院

知能機械システム工学科
弘前大学大学院 二六名
その他、東北大学大学院、
山形大学大学院

平成二十年度
理工学研究科
就職状況
分野別グラフ



紙上企業訪問(2)

電子カルテシステム 導入に携わって

伊藤 隆雄

(平成六年 理学部情報科学科卒業)

同樹会会報第十号の発行に際しお喜び申し上げます。また、こうして原稿を書かせていただくことをたいへん光栄に存じます。

私は、理学部情報科学科の秋葉巴也先生の研究室に所属してご指導を賜り、平成六年の卒業後、現在の㈱シグマソリユーションズに就職しました。

当社は、医療用のコンピュータシステムの開発、販売、サポートを行っており、医療機関、調剤薬局、介護施設向けに、診療報酬(レセプト)計算システムをはじめとして、電子カルテシステム、介護施設支援システム、電子薬歴システム等を提供しております。当社が全国に先駆けて開発した写真付の服薬指導書「お薬の写真」は、皆さんも一度ならず目にしていることと存じます。

本社は秋田県秋田市にあり、北海道から東京まで北日本をカバーするような形で支店があります。私は現在、青森市にある青森支店に勤務しており、青森県、秋田県、岩手県の北東北三県において、病院向けの医療用

コンピュータシステムの導入や管理を行っております。病院では、各部署毎に非常にたくさんシステムが使われています。受付・会計事務で使用される医事会計システム、薬局で使用される調剤支援システム、検査部門で使用される検体情報システムや画像管理システム、リハビリシステムなどがあり、これらのシステムの中核となるのが電子カルテシステムとなります。電子カルテシステムを中心として各システムとのデータの連携を行う事で、データの一元管理、共有化ができ、病院全体の様々な業務が効率化、迅速化されます。また、病院自体のメリットだけでなく、待ち時間が短くなる、治療の経過が誰にでもわかりやすい形で保存されるなど患者にとってもメリットがあります。

私の担当している電子カルテシステムの導入は、大きく三つのフェーズに分かれており、(一)運用を決定する導入フェーズ、(二)決定した運用を元にシステムを構築する構築フェーズ、(三)構築されたシステムを動作検証し、操作説明と稼働シミュレーションを行う検証フェーズ、という流れで進みます。導入にあたっては、五名前後のプロジェクトチームを発足し導入作業を行います。導入から概ね六ヶ月程度でシステムが本稼働しますが、構築フェーズからは、社内にいる時間が少なくなり、院内での作業が主体となります。ちなみに今私は、岩手県の病院を担当しており、配属は青森支店ですが岩手県にいる時間が非常に多くなっています。

電子カルテシステムの導入を担当して最も嬉しい事は、何と言っても六ヶ月という長い時間をかけて構築したシステムが本稼働した時の達成感です。また、プロジェクトチームの団結力も高まり人間関係が深まります。それから、長い期間病院の中にいますので、ドクターを始め職員の方々と良いコミュニケーションがとれ、その後のサポートも含め長い良いお付き合いができます。各地の名産を色々と食べられることも魅力の一つです。

病院に行くと、ドクターがコンピュータに向かって診察内容を入力していたら、それが電子カルテシステムです。電子カルテシステムがこのような工程を踏まえて稼働している事を思い出しただければ幸いです。以上、色々と勝手に好きな事を書いてしまいましたが、最後に同樹会の益々のご発展と会員様のご健勝を祈念いたします。筆を終えさせていただきます。



弘前大学出版会

弘前大学出版会は、本学研究者の出版を積極的に支援することを第一の目的として、平成十六年六月二十八日に設立され、平成二十一年五月十八日には学内共同教育研究施設のひとつに加わりました。従来国立大学では、事業的性格のために出版事業を学内に組織することはできず、学外の任意団体、財団法人、株式会社等の外郭団体として組織することしかできませんでした。したが、平成十六年四月の国立大学法人化以降、学内に組織することが可能となりました。

出版物の種類は、一、学術単行本(専門性の高い学術書・研究書)、二、出版会叢書(分野ごとのシリーズもの)、三、教科書類(講義、演習、実験等のテキスト)、四、定期刊行物(研究会・研究グループ等の機関誌・会報等)、五、その他(一般教養書、啓蒙書、記念出版物、出版会が適当と認めたもの)、となっており、現在(平成二十二年二月現在)、全六十六タイトルの書籍が刊行されています。各書籍の詳細は、弘前大学出版会ホームページ <http://www.hirosaki-u.ac.jp/hupress/>にてご覧いただきたく思います。が、ここでは、理工学部の現及び元教員の著書、弘前を離れて

おられる会員各位にお勧めしたい書籍、弘前大学創立の礎に関する書籍、に分けていくつか書名をご紹介します。恩師や学友との思い出を胸に書籍をお手に取っていただくことを願うと共に、今後の弘前大学の発展を支える事業のひとつである弘前大学出版会には是非注目下さい。

【理工学部の現及び元教員の著書】

円分多項式・有限群の指標、本瀬香著
手作りCPU ーハードウェア記述言語VHDLによるー、吉岡良雄著
理工系学生のための数値計算の理論と実際(改訂4版)、小西榮一著

【弘前を離れておられる会員各位にお勧めしたい書籍】

津軽の華 ー弘前大学所蔵ねぶた絵全作品一、津軽の華制作委員会編
写真集 弘前界限 1989-1991 / 写真集 続 弘前界限、今泉忠淳著
写真集 津軽の四季、富田晃著

【弘前大学創立の礎に関する書籍】

旧制弘前高等学校史、旧制弘前高等学校同窓会編
官立弘前高等学校資料目録 ー北溟の学舎の資料群一、弘前大学図書館編

平成二十年度
**工学部卒業・工学研究科修了
 祝賀会**

去る平成二十一年三月二十四日、例年通り大学会館三階大広間にて、工学部卒業・工学研究科修了祝賀会が開催されました。参加率は昨年度から下降傾向となっておりましたが、本年度もこの傾向が続いており、運営に携わる者として努力不足を感じております。参加率向上へ向けて、是非とも会員各位のお知恵をお寄せ頂ければと存じます。しかしながら、内容におきましては、ご退職の先生方を始め、各学科長の先生方からのお言葉や、振袖姿の卒業・修了生からのユーモア溢れるスピーチもあり、参加率の下降を感じないほどの盛会でありました。最後になりましたが、祝賀会準備及び開催にご協力頂いた工学部教職員関係各位に感謝申し上げます。



数理システム科学科



地球環境学科



物質理工学科



知能機械システム工学科



電子情報システム工学科

平成20年度 弘前大学理工学部同樹会決算書

平成21年3月31日

◎収入の部

(円)

項 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	7,638,145	
会 費	1,145,000	正会員 113人 学部 1年(20年度入学) 56人 560,000 " 1年(19年度入学) 26人 260,000 " 2年 3人 30,000 " 3年 0人 0 " 4年(祝賀会時納入3人分含む) 24人 240,000 " 既卒 1人 10,000 院生 1年 2人 20,000 " 2年(祝賀会時納入1人分含む) 1人 10,000 " 後期課程 0人 0 協賛金 3人 15,000
卒業・修了祝賀会当日会費納入分	145,500	学生 27人 67,500 教員等 31人 78,000
預 金 利 息	1,287	
計	8,929,932	

◎支出の部

(円)

項 目	金 額	摘 要
弘前大学同窓会費	240,000	9月9日払込み
同樹会報作成費	212,625	会報第9号 1,500部 (212,625)
卒業・修了祝賀会費	395,500	卒業・修了祝賀会経費 (250,000) 卒業・修了祝賀会当日会費 (145,500)
写 真 代	70,875	卒業・修了祝賀会写真代 (70,875)
通 信 費	31,830	加入案内送料(研究科新入生)(2,940) 未加入者へ加入案内送料(学部4年)(22,760) 卒業・修了祝賀会写真送料他(6,130)
会 議 費	0	
事 務 費	120,000	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消 耗 品 費	22,480	インクカートリッジ(2,520) MOドライブ(19,960)
郵便振替払込料	13,050	会費払込手数料(111人)
予 備 費	7,823,572	次年度以降経費引当金を含む
計	8,929,932	

平成21年度 弘前大学理工学部同樹会予算書

平成21年4月1日

◎収入の部

(円)

項 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	7,823,572	
会 費	3,590,000	正会員 359人 ×@ 10,000円 学部 1年 309人 2年 10人 3年 10人 4年 30人
計	11,413,572	

◎支出の部

(円)

項目	金額	摘要
弘前大学同窓会費	240,000	
同樹会報作成費	225,000	1,500部×@150円
卒業・修了祝賀会費	300,000	120人×@2,500円
写真代	84,000	卒業・修了者祝賀会記念写真 160人×@525円
通信費	40,000	加入案内送料(研究科新入生) 70人×@90円 加入案内送料(学部学生4年) 250人×@120円 卒業・修了者祝賀会記念写真送料他 3,700円
会議費	10,000	
事務費	120,000	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消耗品費	20,000	ワープロラベル用紙, P P C用紙他
郵便振替払込料	18,000	会費払込手数料 150人×@120円
予備費	10,356,572	次年度以降経費引当金を含む
計	11,413,572	

編集後記

平成十七年度より幹事(会計担当)を努めております一線です。本年度は弘前大学創立六十年の年であり、理工学部同樹会といたしましては、創立六十年記念事業に対し五十万円を寄付させていただきました。この場をお借りして、会員各位にご報告申し上げますとともに、創立六十年記念事業へのご理解、ご支援、ご協力に感謝申し上げます次第です。この記念事業のひとつとして、理工学部校舎のそばには、産学官連携及び地域社会連携の拠点となる、創立六十周年記念会館「コラボ弘大」が完成致しました。館内には、喫茶コーナーや芸術的モニュメント、また全地球規模での地震発生や気象の状況などを球体スクリーンで見える「アースビジョン」が設置されております。会員各位におかれましては是非、足をお運びいただき、またご利用いただければと存じます。

さて、コラボすなわち共同作業を進めていくために、まず土台となるのは、双方向の緊密なコミュニケーション、つまりは互いの個を尊重し、互いの立場を考えて、互いの意見を交わすこと、であると思います。そもそも大学は、学生、教職員の間でのコラボレーションの場では

ないでしょうか。しかしここ最近、学生同士の交流の希薄さを初めとして、時間割に従ってのみ大学に出てくる学生、自ら言動せず単に指示を待っている学生など、大学がコラボレーションの場として機能していないように感じてなりません。さて、同窓会組織とは、卒業・修了生の皆様が、大学というコラボレーションの場に参画いただく際の窓口のひとつであると考えております。会員各位におかれましては、是非とも同樹会という窓口を通して、大学のコラボレーションとしての場を盛り立てていくための、さまざまなお知恵やご意見をお寄せ下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

最後に様々な面にてご協力頂きました、理工学研究科事務長始め事務職員の方々に、この場をお借りして感謝申し上げます次第です。

理工学部同樹会協賛者

(平成二十二年四月一日〜平成二十二年二月二十日)

阿部 東氏 一口

ご協賛賜りまして、誠にありがとうございました。

事務局

弘前大学大学院理工学研究科 一條 健 司

住所: 〒036-8561

弘前市文京町三

電話: 0172-39-3660

E-mail: ken@eit.hirosaki-u.ac.jp

URL: http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~doju/

役員一覧

会長	千葉 信行
副会長	三浦 賢二
幹事	松野 徹也
監査	一 條 健 司
	須藤 宏 孝
	勝 弘